

丹波市移住定住ガイド

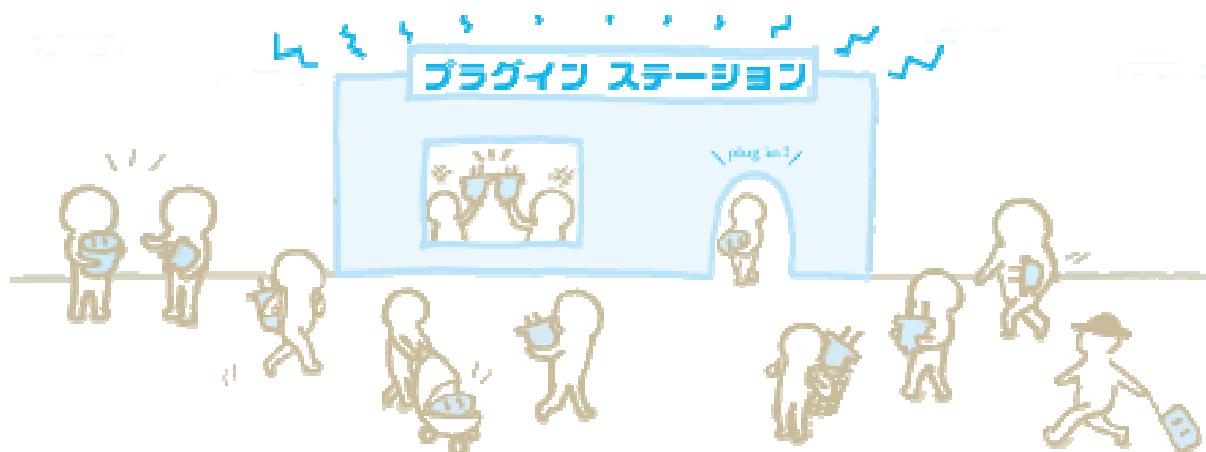
丹  波

丹波市発 移住者だけの編集部による全国移住最新情報

TURN WAVE NewsLetter

Vol.1

「仕事が無いから」の先を創出する しごと × 移住の新しいカタチ



テレワークの進化 「プラグ」のある地方移住

地方創生のかけ声のもと、日本各地で取り組まれる人口減少対策。「しごと」の創出が課題となるなか、あらためて注目を集めているのが「テレワーク」です。テレワークは、ICT(情報通信技術)を活用した場所や時間にとらわれない働き方のことで、主に、①社員が自宅で働く在宅勤務型、②都市の企業が地方にオフィスを構えて人材を送るサテライトオフィス型、③在宅主婦ネットワークを活用して業務を分担するクラウドソーシング型、④自営業者等がカフェなどを活用して仕事を行うノマド型、などが知られています。

そうしたなか今注目したいのが、「プラグイン型」とでも言うべき新しいスタイルです。これまでのテレワークが都市部で仕事を持つ側の視点を中心として仕組み化されていたのに対して、この新しいスタイルは地域側が人脈という「エネルギー」の流れている拠点を準備し、人と人との出会いを促すことで相互にとっての価値を高めるものです。「仕事が無い」は地方移住のハードルとしてよく取り上げられますが、「プラグイン型」は地域と外部人材の交流を促すことで、新しい仕事を生み出す可能性を高めるものと言えます。

地域人材と触れ合える場に身を置くことで互いが「充電」できる『プラグイン型』のテレワーク。
最新の事例をご紹介します。



兵庫県 丹波市 テレワーク推進プロジェクト — 机を、枕を並べてはたらく、くらす

□ 地域コミュニティの中に「仕事場」。地元企業の職場をコワーキングスペースに

丹波市では2015年11月より移住定住を目指したテレワーク推進プロジェクトを開始。企業やフリーランスのテレワーク場所として市内に「仕事場」を設けて、仕事と暮らしを丹波で体験してもらう『お試しテレワーク』を実施中である。企画の肝は、Iターン者や地域のキーパーソンなど市内で活躍する人々と交流できる場に身を置けること。そういった「場」の提供に市内の企業や団体が協力しており、初回は、市内のデザイン会社が仕事場を、Iターン者がオーナーのシェアハウスが住居（共同生活）を提供した。仕事場となった、デザイン会社は、スタッフ全員がIターンという会社で、地域住民がフラリと訪れたり、地域のフリーランサーがコワーキングスペースとして利用するなど、まさしく地域のコミュニティ。テレワークで陥りやすい孤独も、移住にありがちな地域との距離感とも無縁で、むしろ地域に溶け込み、積極的に関わり、時に地域活動に巻き込まれながらテレワークができる。



お試し
テレワーカー
募集中
詳細はP4

「仕事場」を提供する丹波市内のデザイン会社。利用スペースはスタッフと同じフロアと同じ机。
(写真左が東京からテレワークに来た遠藤岳史さん)
コワーキングスペースといってもスタッフと同じ場所で仕事ができ、孤独感はなく社内にも地域にもなじみやすい環境。ときには仕事の相談をし合うなどお互いに啓発される関係が生まれる。

□ 最短1週間。気軽なお試し移住体験を可能にし、大企業もフリーランスも参加

移住体験のネックは、長期間、職場（活動拠点）を不在にできないことである。企業も個人も関心はあるが、短期で1カ月、長期で1年などは難しいという意見があり最短1週間という期間を設定。それにより都内企業のエンジニア1名、フリーランスwebデザイナー1名、大手からもNEC関西支社より1名の参加につながった。

□ 地域・テレワーカー両者に刺激や発見、ビジネスが生まれる機会に

地域の「場」に身を置くことで、刺激やつながり、新たな視点を得て、自己向上やビジネスの創発にもつながる。それぞれに「充電」できるのが『プラグイン型』のメリットだ。体験したNEC関西支社の永井敏夫さんは、『仕事場や暮らしの場で毎日のように新しい人が訪れて刺激になった』と語っている。地域でも手ごたえを感じ、定住促進事業を担当する丹波市住まいづくり課の前川康幸課長は、『テレワーク期間を通して丹波市で活躍する多くの若い人たちと交流し、その魅力に気付き、継続的なビジネス交流や、長期の移住につながってほしい』と期待を寄せている。また、仕事場を提供した事業所の担当者は、『テレワーカーさんが働く姿は、社員にとってもいい影響を与えてくれた。今後はそれを拡大し、テレワーカーさんと地域が一緒になって新しいイベントや動きが生まれるようなお手伝いもしていきたい』と受入れに意欲を示している。



暮らしの場を提供したシェアハウス。テレワーカーはこの民家での共同生活をする。Iターンのオーナーを慕い毎日誰かが訪れるここもまたコミュニティである。人生の悩み相談から地域活性の話まで深夜まで話題が盛り上がり、週末のイベントと一緒に参加するなど結びつきが強まる。

CASE
2

長野県
富士見町

富士見町テレワークタウン — 山小屋を改装し、自然の中で共生・交流

富士見町テレワークタウン計画は、長野県富士見町の既存物件(空き家)を活用し、高速ネット回線やビデオ会議システムなどを備えた住居兼オフィスとして、企業やフリーランスの方々に提供するテレワーキング・プロジェクト(1年以上の利用を条件に、住居兼オフィスの利用が1年無料など)。現在、映像を主体としたクリエイティブ企画・制作スタジオ、webメディア&サービス開発会社など4つの個人・団体がテレワークを実施中。また、2016年春には、山小屋を改装し自然と共生しながら働くことができる、複合型ビジネス交流施設をオープン予定。サテライトオフィスや、企業やフリーランス、地域住民が利用可能なオープン型のコワーキングスペース、セミナーや勉強会、交流イベントが開催可能なイベントスペースなどを備え、仕事場と交流の場を提供する。



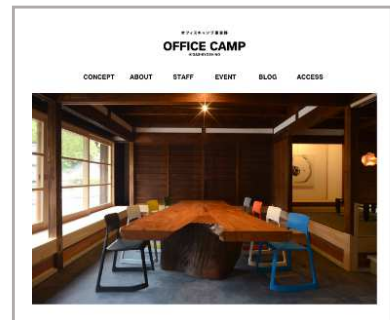
富士見町テレワークタウン
ホームオフィス計画
<http://www.town.fujimi.lg.jp/homeoffice/>
シェアオフィス計画
<http://www.town.fujimi.lg.jp/shareoffice/>

CASE
3

奈良県
東吉野村

オフィスキャンプ東吉野 — オフィスにカフェを併設して交流を促す

奈良県東部地域にある東吉野村の古民家をリノベーションしたシェアオフィス「オフィスキャンプ 東吉野」。オフィスにカフェを併設し、地域の人との交流を促している。フリーランスやアーティストなど、働く場所を選ばない人たちに「山村で働く」ことを体験してもらう場にもなっており、20~30代の都市在住の若者を中心にオープンから1年で、のべ1,000人がここを訪れた。仕事体験をした人、この地が気に入って移住した人も。場の運営は都市部から移住したクリエイターが、村や地域住民のサポートを受けて行っている。また、ここをきっかけに移住する人たちを村役場と連携して支援する。



オフィスキャンプ東吉野
<http://officecamp.jp/>

CASE
4

福岡県
福岡市

福岡クリエイティブキャンプ — OJTによって地域の現場に放り込む

主に首都圏で活躍しているIT・デジタルコンテンツ等の開発経験者(クリエイティブ人材)の福岡市内企業へのU・Iターン転職を応援するために、福岡市が実施するプロジェクト。ゲーム、CG・映像、web、システム・サービスなどの求人の特化しており、福岡市内への転職・移住を前提に、2カ月間のトライアルワーク(OJT/実務研修)を経て就職を目指すもの。昨年と同プロジェクトに36社から求人があり、約70人がエントリー。関東圏からの応募者が半数で、その後この制度を活用して15名が移住。



福岡クリエイティブキャンプ
<http://fcc.city.fukuoka.lg.jp/>

丹波市 DATA



人口：約6万7000人（2015年9月時点）。面積：493.28Km²。兵庫県の中央東部に位置し、柏原町・氷上町・春日町・山南町・市島町・青垣町の6町からなる。大阪・神戸から車・電車で約1時間30分～2時間のアクセスの良い田舎。



農・食

豊かな自然と気候風土に恵まれた環境は、名産の小豆・栗・霧芋から米や野菜まで多様な農作物を育み、古くは、「丹波栗」が幕府や朝廷への献上品に、現在では、「丹波大納言小豆」が京都の高級和菓子の材料として使われるなど、質の高い作物を育む土地として知られている。また市島町を中心に有機農業も盛んで、農業を志す人の就農・移住先としても注目されている。

移・挑

最近では都市部から移住する若者が現れ、市内に4か所あるシェアハウスはIターン者の拠点的な役割を果たしている。都市部からの移住者が中心的に活躍する企業もあり、都市部目線でマーケティングや田舎暮らしの相談などに当たっている。また、丹波市は、活躍人口の増加を総合戦略で掲げており、「チャレンジできるまち たんば」として視察ツアーを受け入れたり、起業を支援したりしている（右中の写真は起業支援のHP）。また、スタッフ全員が都市部からの移住者という企業もあり、都市部目線でのモノづくりで地域社会に役立つ取り組みを目指している。



起業支援「たんばチャレンジカフェ」

遊・育

山々に囲まれた自然豊かな風土を活かしたイベントや子育ても盛ん。地域の有志が主催する森を舞台にした「あそびの学校」や、お母さんたちの野外での子育てグループなど子育て世代にとっての魅力的な取り組みもある。また、大人にむけた森あそびでは、「森ハンモックカフェ」や「森とごはんと昼ワイン」といった、森の中で贅沢なひとときを過ごす企画を開催し、都市部の若い女性やファミリー層からの人気を集めている。



移住者が企画運営する森ハンモックカフェは、毎回人気のイベント。

【移住・定住ニュース】

お試し
テレワーカー
募集中

丹波市でテレワークされる方を募集中（働く場所と住居を無償提供）内容は下記の通り

- ・働く場所と、住居（シェアハウスで移住者と共同生活）を無償提供。※丹波市までの交通手段および、丹波市内での移動手段は各自用意
- ・期間：1週間～1か月程度
- ・体験期間中に丹波市のテレワーク推進広報活動に協力いただけること（SNSでの情報発信、メディアの取材・出演が可能な方）
- ・問合せ先：丹波市建設部住まいづくり課 TEL0795-88-5039 ※定数に達した時点で終了となります

【この資料に関する問い合わせ先】

移住者の目線で地域を元気にする。本ニュースレターは、「ふるさと丹波市定住促進会議」の委託を受け、スタッフ全員が移住者である企画・デザイン会社・(株)ご近所が発行しています。

株式会社ご近所

担当：恒松（つねまつ）智子
〒669-4265 兵庫県丹波市春日町中山192-1
TEL0795-78-9603 / FAX 0795-78-9604
Mail tomoko.tsunematsu@gmail.com

ふるさと丹波市定住促進会議

webサイト「丹波市移住定住ガイド TURN WAVE」にて移住情報を発信中



<http://teiju.info/>